

約26年ぶりの日本株高の中での積立投資はどうか？「つみたてNISA」で使われる積立投資を多様な地域・資産・期間で検証！

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

約 26 年 ぶ り の 日 本 株 高 の 中 、 つ み た て NISA の 売 れ 筋 も 日 本 株 フ ェ ン ド !

2018年1月16日に日経平均株価は2万3951.81円と1991年11月15日以来26年2カ月ぶり高値となった。米国の主要株価指数が過去最高値を更新している事などが日本株の好材料となっている。

2018年1月1日にスタートした「つみたてNISA(少額投資非課税制度)」の対象商品138本(p.6の※1を参照)でも人気は日本株ファンドである。2018年1月4日～19日において「つみたてNISA」対象商品の資金純流入(推計)上位3本は日本株ファンドだった(*4・7・10位: グローバル株ファンド、5位: 米国株ファンド、6位: 日本株ファンド、8位: アセットアロケーションファンド/バランス型ファンド、9位: エマージング株ファンド)。

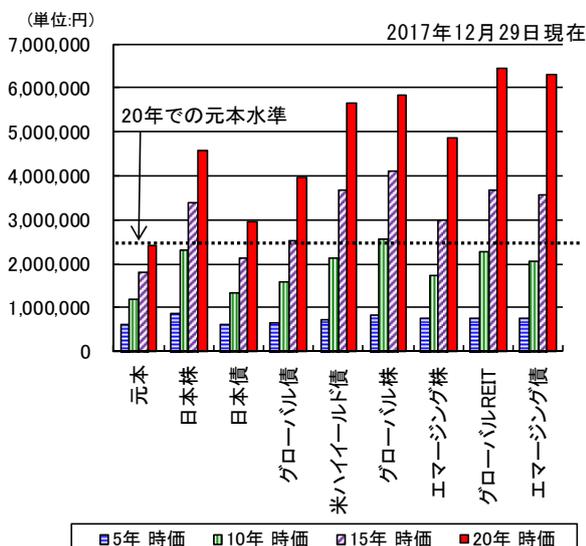
「つみたてNISA」は「あらかじめ決めた投資対象(投資信託)に、定時定額の積立方式によって機械的に投資するもの」(金融庁～URLは後述[参考ホームページ]①)、つまり投信の積立投資であり、最長20年間の投資が可能だ。では実際に、20年前から、毎月1万円ずつ積立投資をしていたら、今頃は、いくらになっているものだろうか？ 今後も今のよう株高が続けばよいが、急落した場合に積立投資は有効なのだろうか。日本株だけではなく、それ以外の資産に投資した場合はどうなのか？ そこで「つみたてNISA」にも使われるベンチマークを過去にわたり検証し、積立投資のリターン/リスクおよび積立の有効性を、多様な地域・資産・期間で見る事とする。

2017 年 末 まで 、 い ず れ の 期 間 も 利 益 と な り 、 20 年 で リ タ ー ン が 2 倍 超 の 資 産 も あ っ た

まず、2017年12月末時点で、5年・10年・15年・20年間、1万円を毎月投資し続けた積立の検証結果から見る。

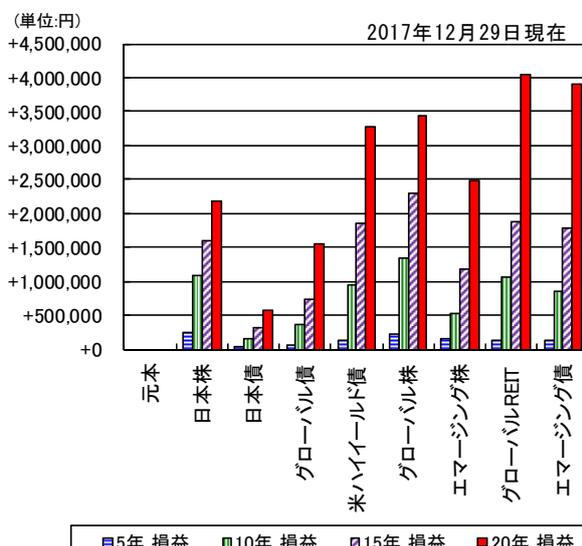
投資期間 5年・10年・15年・20年

2017年12月29日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の 時価 *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)
*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している(以下同じ)。

2017年12月29日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の 損益 *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

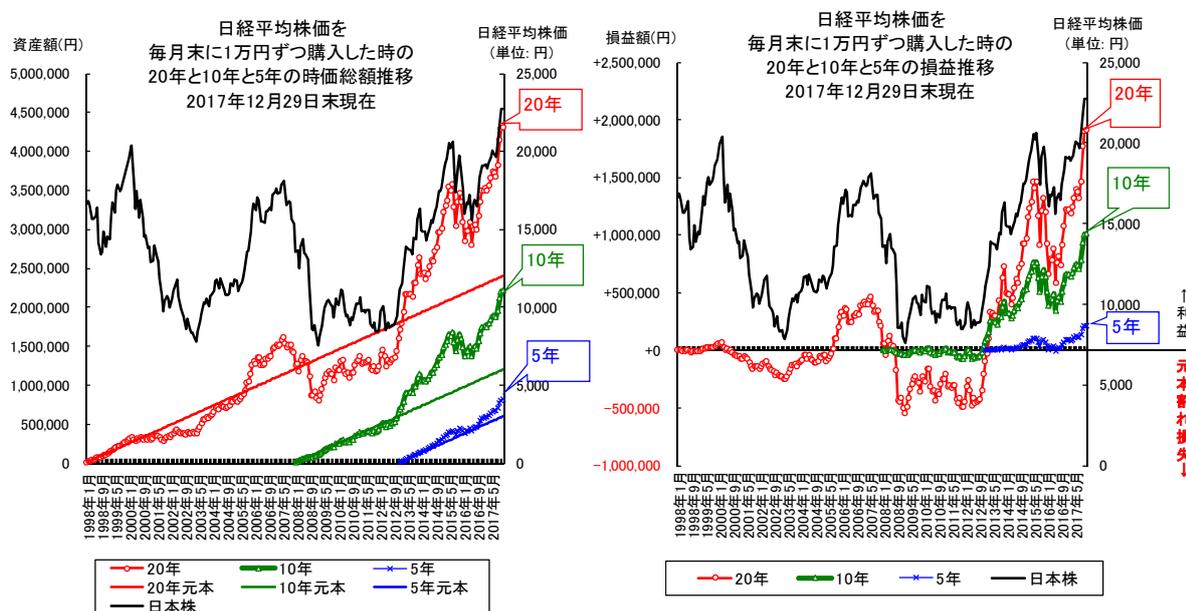
前頁グラフの左が時価、右が損益(*手数料等は無視)。結果は、いずれの期間でも利益となり、特に20年の投資期間では元本の2倍超のリターンとなる資産もあった。

より詳しく見ると、足元の株高を反映して5年では日本株(僅差でグローバル株)のリターンが最も良かった。10年ではグローバル株(次いで日本株)、15年でもグローバル株(次いでグローバルREIT)、20年ではグローバルREIT(次いでエマージング債)のリターンが最も良かった。実際、昨年2017年のNISA投資では、投信への投資(積立含む)を行っている投資家にグローバル株ファンドが最も人気であったことから、これまでにについてはグローバル株投資は有効な投資だったと言えよう(2018年1月15日付日本版ISAの道 その210 参照~URLは後述[参考ホームページ]②)。

上記グラフで目立つのが投資期間20年である。2017年12月末まで20年積立投資を続けた場合、現在人気が続くグローバル株も確かに良かったが、グローバルREITやエマージング債はグローバル株以上にリターンが良かった。元本に対する時価の大きい順に、グローバルREIT(約2.7倍)、エマージング債(約2.6倍)、グローバル株(約2.4倍)、米ハイイールド債(約2.4倍)となっており、平均が約2.1倍で、エマージング株(約2.0倍)、日本株(約1.9倍)となっている。

2018年1月10日にモーニングスター・ジャパンが「つみたてNISA」の対象商品でもある「日本株式」、「全世界株式」、「先進国株式」、「新興国株式」への20年積立投資の成果を検証・公表していた(URLは後述[参考ホームページ]③)。それによると、2017年12月にかけて20年間にわたり行った積立投資の成果は、投資元本240万円に対し、「日本株式」430万円、「先進国株式」(442万円)、「全世界株式」(429万円)、「新興国株式」(508万円)となり、「全世界株式」は年平均8%、「新興国株式」は、年平均9%で資産が成長したと言う。

以上はあくまでも2017年12月までの20年間積立した場合である。投資資産によっては、積立期間の途中、市場の急落により、元本割れすることも起こりうる。下記は、毎月末に1万円ずつ日経平均を購入した時の2017年12月末までの20年と10年と5年の時価総額と損益推移である。いずれの投資期間でも2017年12月末時点で、投資元本を上回る利益となっていたが、リーマン・ショック(2008年9月)から2012年頃は元本割れすることも多かった。



(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

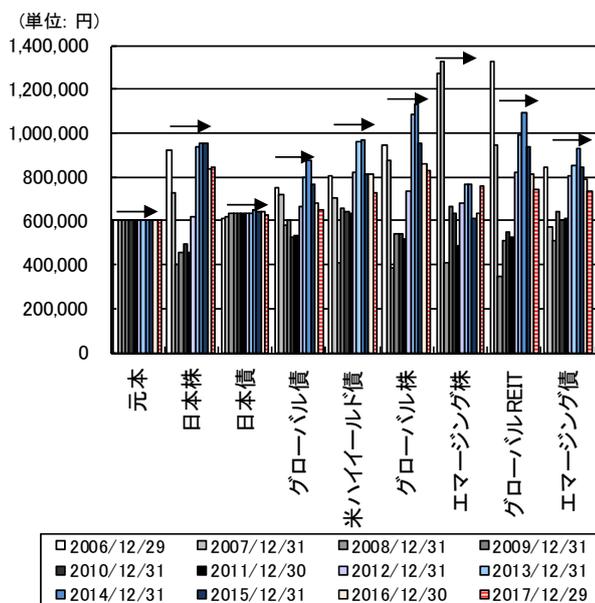
2017年12月末時点以外、積立の終了時期を変えて検証する

ここで積立の終了時期を変え検証する。積立投資は「出口」、つまり、いつ終わるかがとても重要となる。積立投資で「特に成績が悪かったのは、積み立ての終了時期がリーマン・ショック直後になった区間。積み立ては後半になるほど投資額が膨らむため、投資をやめる時期の相場環境に結果が大きく左右される。」(2016年1月4日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]④)とされている。

積立は一括投資の様な「投資時期と終了時期の2時点での市場次第」と言うリスクは軽減されるものの、「終了時期の市場次第」と言うリスクがある(*積立期間中に市場価額が上下して平均投資単価が時価を上回るリスクもある)。20年の積立投資を目指して始め、期間の途中でリターンが2倍になったとしても、投資の終了時期によっては、元本を下回りマイナスとなる場合もある。そこで終了時期の検証をする。2006年～2017年の各年末までを検証した結果である。まずは投資期間5年である。

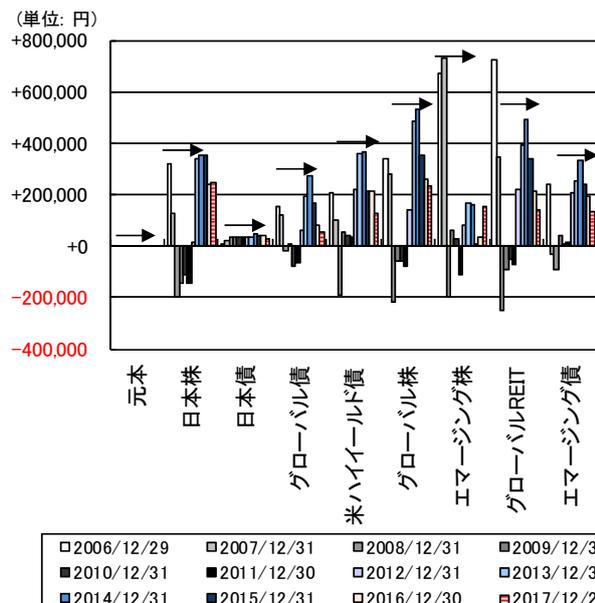
投資期間5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 時価
*左から2006年～2017年の各年末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 損益
*左から2006年～2017年の各年末。



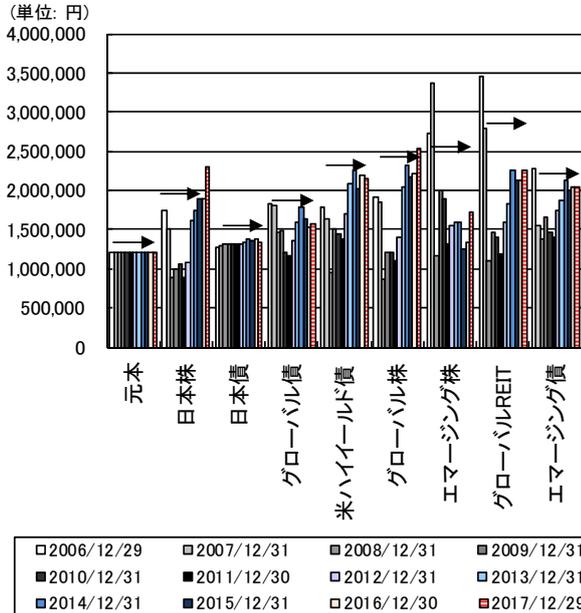
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

上記グラフを見ると、グローバル REIT・グローバル株・日本株はリーマン・ショック(2008年9月)後2008年末から2011年末まで損失が続いている。ただ2012年末に回復、2014年末にかけ利益が拡大している。エマージング債は2007年末と2008年末で損失、米ハイイールド債は2008年末に損失となっている。

次いで投資期間10年である。次頁グラフの通り、投資期間5年に比べ総じて黒字化している。グローバル REITとグローバル株は、投資期間5年では2008年末から2011年末まで損失だったが、10年では、2008年末と2011年末だけで損失である。エマージング債は5年では損失の時もあったが、10年ではどの時点でも利益となっている。グローバル債は5年で2008年末・2010年末・2011年末いずれも損失だったが、10年では2011年末のみ損失となっている。総じて損失となる年が減り損失額も小さくなっている。ただ、日本株は2008年末から2012年末まで損失であり、投資期間5年より損失年が増えている。

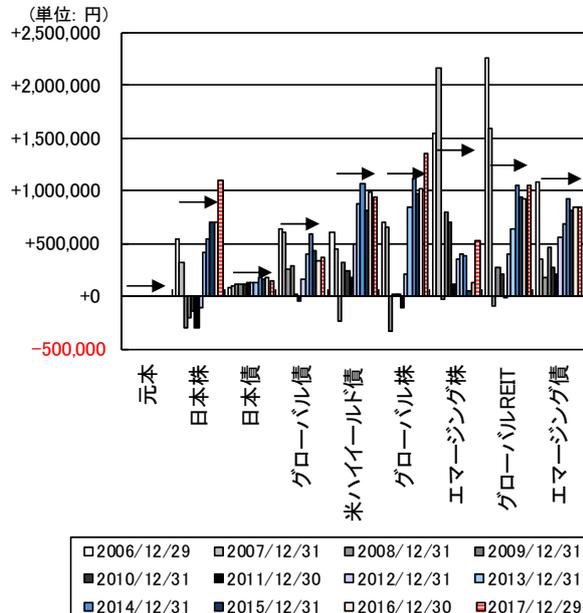
投資期間 10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価
*左から2006年～2017年の各年末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益
*左から2006年～2017年の各年末。

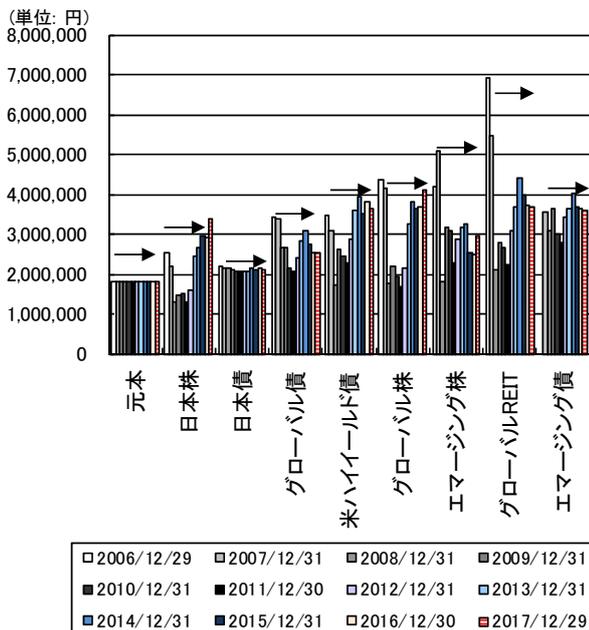


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

そして投資期間 15年・20年である(下記及び次頁参照)。10年と比べ、黒字化する傾向がより鮮明となる。大半がいずれの時点でも利益、もしくは、見えないくらいの損失にとどまる。日本株は2013年に黒字化した。この様にリーマン・ショック(2008年9月)の様な相場暴落の中でも、より長期の積立投資では良好な結果になっている。

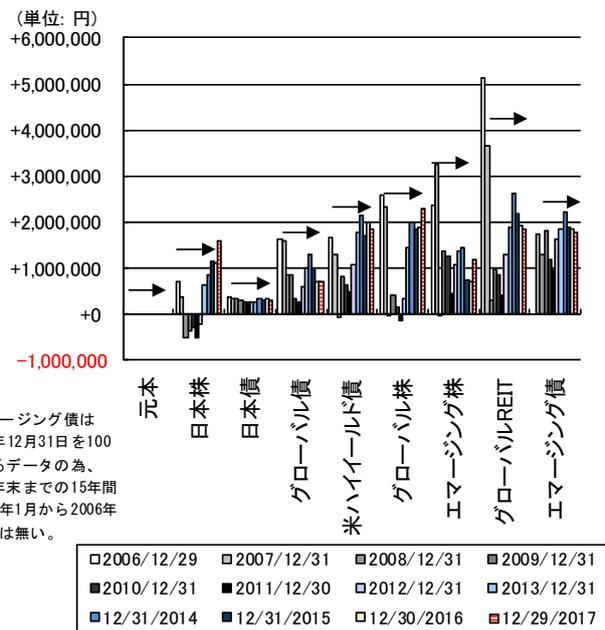
投資期間 15年

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価
*左から2006年～2017年の各年末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益
*左から2006年～2017年の各年末。

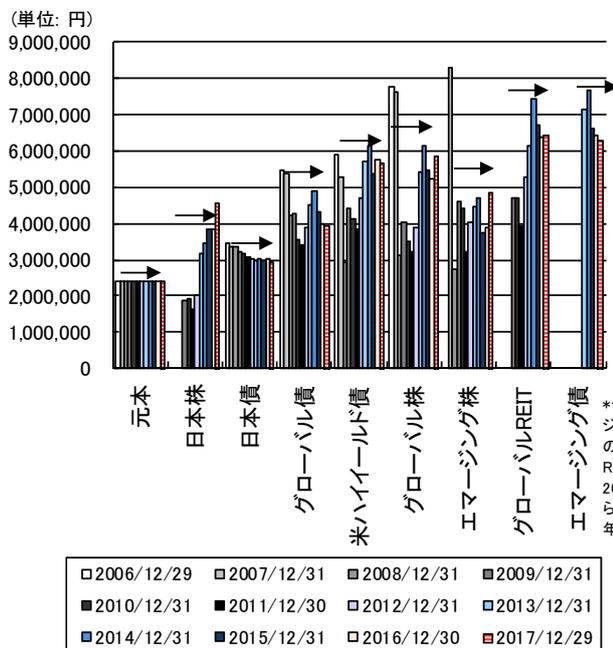


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

*エマージング債は1993年12月31日を100とするデータの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無い。

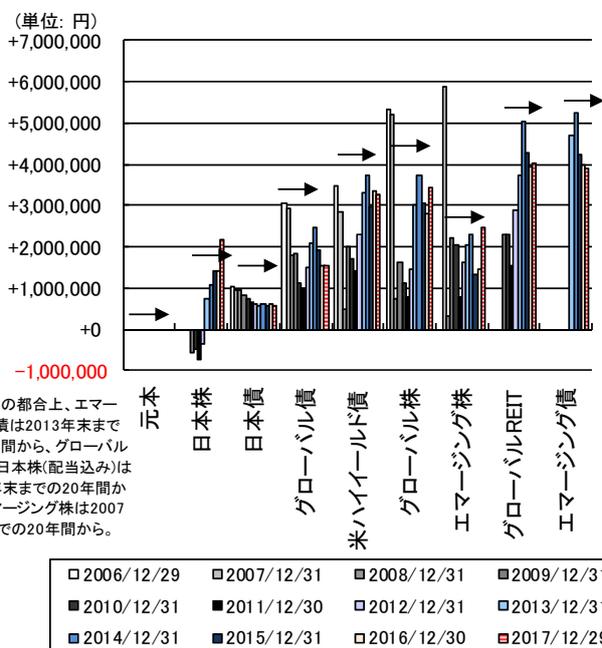
投資期間 20年

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 時価
*左から2006年～2017年の各年末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 損益
*左から2006年～2017年の各年末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

*データの都合上、エマージング債は2013年末までの20年間から、グローバルREITと日本株(配当込み)は2009年末までの20年間から、エマージング株は2007年末までの20年間から。

尚、積立投資と共に金融庁がその効果を強調している(資産の)分散投資、バランス型ファンドは、以上の検証の組み合わせに近い、もしくは、ベンチマーク間の「負の相関」があれば、よりリスクを低めてくれ損失をもっと少なく出来る可能性もあろう。20年でも終了時によっては損失となった日本株についても先の資産との分散をすることなどでつみためてNISA(あるいは一般NISA)の投資対象として組み込む意味は十分あると思われる。

以上、ここに掲載したリターンやリスクを参考に積立を検討、つみためてNISA、iDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金、そして一般NISA(成人NISA)、ジュニアNISA、職場積立NISAといった節税出来る金融商品を使い、日本株も含め多様な選択肢から投資をして資産形成の一助にしてほしいものである。

※1: つみためてNISAの対象商品…つみためてNISAで投資できる商品は、金融庁が承認した投資信託に限られる。具体的には、販売手数料が無料(0%)、信託報酬が最大で1.5%以下などの金融庁が示す要件を満たす投資信託。2016年11月末時点で、要件に該当する投資信託は約50本と、公募投信(約5000本)のわずか1%だったが、2017年7月末には120本に増加(事前相談数)。正式な届出の初日2017年10月2日時点で公募投信103本、最新2018年1月12日時点では公募投信135本、ETF3本である(うち指定インデックス投信120本、アクティブ運用投信等15本)。以上、金融庁が示す要件や個別ファンド名など詳細および更新情報は金融庁HP参照(URLは後述[参考ホームページ]⑤参照)。また、2017年4月24日付日本版ISAの道その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に」、2017年9月11日付日本版ISAの道その195「『つみためてNISA対象(仮確定)商品』は114本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!!」その中、現行NISAで8月に投資された先は?も参照の事(URLは後述[参考ホームページ]⑥参照)。

以上

[参考ホームページ]

- ①2017年12月26日付金融庁「金融庁職員におけるつみたてNISA等の利用について」…
「 <http://www.fsa.go.jp/news/29/20171226/171226-3.pdf> 」、
- ②2018年1月15日付日本版ISAの道 その210「つみたてNISA」が本格スタート! 申込25万件!!NISA導入以来で最大の純流入となった新規投資家(NISA向けファンド)で12月はグローバル株やエマージング株、アセットアロケーションが人気!!!」…「 https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_180115.pdf 」、
- ③2018年1月10日付モーニングスター・ジャパン「つみたてNISA(積立NISA)で始める20年投資、過去20年間で最も儲かった投資商品は?」…「 <http://nisa.morningstar.co.jp/column/007849.html> 」、
- ④2016年1月4日付日本経済新聞電子版「積み立て投資は10年続けよ『勝率』は9割“完璧”安心老後のポートフォリオ」…「 http://www.nikkei.com/money/column/nkmoney_tokushu.aspx?g=DGXMZO9423455020112015000000 」、
- ⑤金融庁「つみたてNISA対象商品届出一覧」…「 <http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html> 」、「対象商品の要件についての告示」…「 <http://www.fsa.go.jp/common/law/kokuji/20170331nai540.pdf> 」、
- ⑥2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…
「 https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf 」、2017年9月11日付日本版ISAの道 その195「『つみたてNISA対象(仮確定)商品』は114本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!! その中、現行NISAで8月に投資された先は?」…「 https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170911.pdf 」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「 <https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html> 」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

・日経平均株価に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は本商品を保証するものではなく、本商品について一切の責任を負いません。